



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



記事を読んで、問いに答えなさい。

2021年1月21日朝刊

時の人 第164回芥川賞に決まった
宇佐美 りんさん



憧れの芥川賞を初ノミネートであつさり手にした。三島由紀夫賞を受けたデビュー作「かか」に続く2作目。文学界期待の大学2年生は「深掘りしていくような骨太の作品を書きたい」と語る。

受賞作「推し、燃ゆ」の主人公は、世間で普通とされることができず、日常生活にままならなさを抱え、「いち推し」のアイドルを応援することを「背骨」と感じる高校生のあかり。ファンに手を上げネットで炎上するアイドルに、それでも一心に思いを寄せる。「感情を狂わされたり生きやすくなったり、趣味にとどまらない愛情の在り方だと思って、前から書きたいテーマだった」。自分にも中学生以来の「推し」がいるというが「(あかりと比べ)もう少しライト」という。

あかりにとつてのアイドルが、自分にとつては小説だと言い切る。「書いている時は全力を注ぎ込め、自分を肯定することができる」。小学生の頃から物語を書いてきたが、本格的に取り組んだのは高校から。理想と現実のギャップに苦しんでいた時、中上健次さんらの作品に救われ、自分でも書こうと思った。

「ままならなさ、どうしようもなさ」が、これまでの作品に出ているのは自然なこと。これから先も出てくると思う。

沼津市生まれで、大学では国文学を専攻。演劇と歌舞伎のサークルに所属し、昨年は初めて脚本を担当した舞台が上演された。オンライン授業になり時間に余裕はできたが「時間があれば書けるものでもないんだと痛感した」と笑う。21歳。

①作家に贈られる文学賞で、芥川賞と同時に発表されるのは何賞か。

()

②記事の宇佐美さんが本格的に小説を書こうと思ったきっかけは何か。

[Blank area for answer]

③宇佐美さんにとって小説とはどのようなものか。

[Blank area for answer]

④記事にふさわしい見出しを考え、10字以内で書きなさい(句読点は付けない)。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(中学校~高校/国語、総合)

記事を読んで、問いに答えなさい。

解答例

2021年1月21日朝刊

時の人

第164回芥川賞に決まった
宇佐美 りんさん

憧れの芥川賞を初ノミネートであったり手にした。三島由紀夫賞を受けたデビュー作「かか」に続く2作目。文学界期待の大学2年生は「深掘りしていくような骨太の作品を書きたい」と語る。

受賞作「推し、燃ゆ」の主人公は、世間で普通とされることができず、日常生活にままならなさを抱え、「いち推し」のアイドルを応援することを背骨」と感じる高校生のあかり。ファンに手を上げネットで炎上するアイドルに、それでも一心に思いを寄せる。「感情を狂わされたり生きやすくなったり、趣味にとどまらない愛情の在り方だと思って、前から書きたいテーマだった。自分にも中学生以来の「推し」がいるというが（あかりと比べ）もう少しライト」という。

あかりにとってのアイドルが、自分にとっての小説だと言い切る。「書いている時は全力を注ぎ込め、自分を肯定することができる」。小学生の頃から物語を書いていたが、本格的に取り組んだのは高校から。理想と現実のギャップに苦しんでいた時、中上健次さんらの作品に救われ、自分でも書こうと思った。

「ままならなさ、どうしようもなさだが、これまでの作品に出ているのは自然なこと。これから先も出てくると思う」

沼津市生まれで、大学では国文学を専攻。演劇と歌舞伎のサークルに所属し、昨年は初めて脚本を担当した舞台が上演された。オンライン授業になり時間に余裕はできたが「時間があれば書けるものでもないんだと痛感した」と笑う。21歳。



①作家に贈られる文学賞で、芥川賞と同時に発表されるのは何賞か。

(**直木賞**)

②記事の宇佐美さんが本格的に小説を書こうと思ったきっかけは何か。

理想と現実のギャップに苦しんでいた時、中上健次さんらの作品に救われ、自分でも書こうと思ったこと。

③宇佐美さんにとって小説とはどのようなものか。

書いているときは全力を注ぎこめ、自分を肯定することができる(もの)。

④記事にふさわしい見出しを考え、10字以内で書きなさい(句読点は付けない)。

(例) 小説は自分の背骨(8字)
推しは小説(6字)
骨太の作品を書きたい(10字) など

年 組 名前